

合、酪農中心地帯に都市化特に、宅地化が及んでいないため、現在の所こうした問題は焦眉のこととはなっていないが、いずれ近いうちに問題となつてこよう。

②、地価の高騰は、経営規模の拡大、農地の交換分合を妨げ、農業経営の合理化を阻んでいる。一方、土地さえ持っていれば、という安心感が生じ、返って経営の科学的管理や経営方法の改善を妨げており、それは市の農業対策にもあらわれている。

③、騒音、振動、排気ガスの乳牛に与える影響については、調査がなされていず、また明白な形をとってあらわれてもいないが、何がしかの影響を与えていることは、まちがいない。

## 甲府盆地北東部の農業的土地利用について

原 賀 真理子

調査地域は甲府盆地の北東部で、西を笛吹川に、東と南を重川に、北を山地で区切られ、ほぼ三角形をしている。行政的には塩山市と山梨市にまたがる。地形と農業的土地利用との間にどのような相関関係があるか、もし関係があれば、その度合はどの程度であるかを量的にとらえることが、論文の目的である。

調査地域は笛吹川と重川の扇状地である。気候は年降水量が少なく、夏の気温は高く、年較差は大きく、日照時間、日照率は大きな値を示し、内陸盆地的特色を示す。

土壌は、5つの土壌統に分けられるが、いずれの地域も、土壌的に生産阻害因子のないすぐれた農耕適地でもないが、一方耕地として利用が困難とされる土地もない。

農家は平均50aの狭い耕地面積で経営規模はさほど大きくはないが、専業農家が多く昭和40年には約38%を占めている。その収入の大半を果樹と養蚕から得ている。

農業土地利用の変遷をみると、明治中頃では畑が多かったのが次第に桑園が増加し、昭和初期には桑園面積は耕地の大部分を占めるに至った。しかし、生糸の価格低下等が原因して桑園は次第に減少し、第二次大戦直後までに水田面積はかなりの増加をみたのである。戦後、果樹園化が進み、昭和25年から43年までの18年間に、果樹園面積は約8倍となり、現在は、果樹園化への過渡期にあるといえる。

果樹園化がおこなわれる要因としては、戦後の生活水準の向上からくる需要の増大、大市場である東京に近いこと等に加えて、果樹は単位面積当りの生産額が米よりも高いこと、桑も果樹と同様に高い収益をあげ得るが労働報酬は果樹の方がより高いことがあげられる。

栽培されている果樹の種類はぶどうとももが主で、他にうめ、かきなどがあるが、最近はももが

増加してきている。

調査地域の13の地形面についての土地利用面積比の結果から、次のことが判明した。

1. 山麓急斜面，山麓緩斜面では耕地の中では桑園が卓越し，水田は少ない。
2. 旧河道面，現沖積面及び重川段丘面では，水田面積の占める割合はおおきく，現在で60～70%，昭和29年頃では60～90%に達し，果樹園，桑園，集落等の面積は少ない。
3. 上記の面を除くと，水田，桑園，果樹園の割合に大きな差はないが，その中で扇状地Ⅴ面，Ⅶ面，Ⅷ面，笛吹川段丘面が水田の割合がやや少なくなっている。

以上から，旧河道面，現沖積面，及び重川段丘面と水田とは高い相関関係を示し，山麓斜面と桑園とも同様であり，地形が農業的土地利用に影響を与えているといえる。扇状地面と笛吹川段丘面は，他の面に比較して低い相関度であるが，これには扇状地面の地形区分の方法も影響していると思われる。

土地利用と地形とのこのような関係にある理由は，主として傾斜と地下水位にあるのではないかと考えるがこの点については不明である。

## 栃木県西那須野町の地理学的考察

本 沢 みどり

調査地域を，那須扇状地西半に位置する西那須野町とし，人口を主な指標としながら，西那須野町の性格を考察した。論文は全体を大きく2つにわけ，第Ⅰ章では西那須野町の概観を把握し，第Ⅱ章で現在の西那須野町の状況をさらに詳しく検討した。

西那須野町は，明治中頃から始まった農業開拓集落を基礎とする歴史の浅い町である。農業に関してもいわば後進地域であったが，戦後の開田の進行と共に米作の代表的地域のひとつになっている。人口から見ると，関東地方の内陸，縁辺部では人口減少が一般的である中で，西那須野町は，人口が徐々に増加している。市街地も周辺農村地域も人口は増加している。就業人口を見ると，市街地では産業別人口構成にほとんど変化はなく，第3次産業人口が多い。これに対して周辺農村地域では，第1次産業が減少し，2次，3次産業人口の増加がはっきりみられ，それは若年層程著しい。次に西那須野町に常住する就業者を就業地別にみると，他市町村を就業地とするものが年々増加している。また他市町村に常住し西那須野町で就業する者の数も増加している。しかし，西那須野町における就業者数は停滞している。西那須野町と他市町村との間で労働力の移動が行なわれていることがわかる。特に大田原市との関係が密接で，全体の50%近くを占める。